

科目名	文化学部の学びとキャリアA				
英語科目	ナンバリング	Clcul206 GKcul203			
開講期	春学期	開講学部等	文化学部	配当年次	2年次
教員名	久米 裕子, 志賀 浄邦, 藤高 和輝				
単位数	2単位				

### 授業概要／Course outline

皆さんは「進路」「就職」と聞くと、どのようなことを思い浮かべるでしょうか。おそらく3年次生後半から始まる「就活」をイメージする人が多いことでしょう。そして「就活」といえば、エントリー・シートの書き方、各種筆記試験の攻略法、グループディスカッションにおける振る舞い方、面接で好印象を与えるにはどうすればよいかなど、内定を獲得するためのノウハウが思い浮かぶことと思います。しかしながら、そのようなノウハウやテクニックは「就活」の場面では役立つかもしれませんが、その先も続く長い人生という観点からすれば、ある期間中のみ有効な、その場限りのものに過ぎません。

この授業では、「就活」を勝ち抜くためのノウハウやテクニックを学ぶのではなく、一人一人が、大学卒業後実社会を生き抜いていく上で基本となるものの見方・考え方を育むことを目指します。文化学部では様々なこと—文学・芸術、思想、歴史、地域に根差した文化、異文化理解、多文化共生、文化理論などを学びますが、文化学部での学びと自分自身のキャリアの関わりを意識し、文化学部で学んだことを卒業後または社会に出てからどのように活かせるかを考えます。具体的には、「異文化理解」「ロジカル・シンキング（論理的思考）」「クリティカル・シンキング（批判的思考）」、「メディア・リテラシー」などのテーマの下に展開される授業内容を主体的に学ぶことを通して、働くことの意味や目的、働くことと幸福・自己実現の関係について考えます。

### 授業形態、授業方法等／Course form・type

#### 【授業形態】

対面授業

#### 【授業方法】

講義

・実務経験のある教員による授業

第9回の授業時には、アセスメントテスト（GPSアカデミック）の結果に関する振り返りを行う予定であるが、その際外部講師（ベネッセ担当者）を招き、テストの内容や結果についての解説や分析等をしていただく予定である。

### 授業内容・授業計画／Course description・plan

第1回 イントロダクション、キャリア・デザインについて 【担当：藤高】

授業概要、スケジュール、評価方法などについて説明します。また、この授業の問題意識について確認します。

第2回 テーマ：「キャリアとライフ」 【担当：藤高】

一口に「キャリア」と言っても、人生＝ライフと切り離せないものです。キャリアとライフの関係について事例を挙げながら考えます。

第3回 テーマ：「異文化理解・人文学とキャリア①」 【担当：久米】

「自文化と異文化」について講義します。自文化とは何か。異文化とは何か。異文化に触れたときに生じる違和感の正体は何なのか。異文化との向き合い方について考えてもらいます。

第4回 テーマ：「異文化理解・人文学とキャリア②」 【担当：久米／ゲスト】

現代の韓国文化と深い関わりをもつお仕事をしているゲストをお迎えし、ご自身のキャリアについてお話いただくとともに、似ているようで異なる日本・中国・韓国の「モノの見方・考え方」についても触れる予定です。異文化に対する理解を深める機会にして下さい。

第5回 テーマ：「異文化理解・人文学とキャリア③」 【担当：久米】

「多文化共生」について講義します。もっとも身近な異文化である中国文化を題材に、互いの文化的な違いを認め、対等な関係を築きながら共に生きていくということについて考えてもらいます。

第6回 テーマ：「異文化理解・人文学とキャリア④」 【担当：久米】

第3回から5回の「総括」ならびに人文学（文学・芸術、歴史、思想）を軸とする文化学部の学びについて講義します。人文学とはどのような学問なのか。一人の社会人となるにあたって、文化学部の学びを通じて身に付けておくべき力は何なのかについて考えてもらいます。

第7回 テーマ：「異文化体験のすすめ～「国際文化研修（インド）」を事例として～」 【担当：志賀／ゲスト：同研修経験者（予定）】

文化学部専門科目「国際文化研修（インド）」（次回は2023年度開講予定）の現地校での留学プログラムを一例として取り上げ、異文化体験および異文化交流の意義とそれらの場面で起こりうる問題について学びます。あわせて、身近な（または広義の）「異文化体験」の例を共有しつつ、学生時代に留学する意味や大学で外国語を学ぶ意味、また異文化体験と将来のキャリアの関係についても考えてみたいと思います。

**第8回 テーマ：「ロジカル・シンキング（論理的思考）」 【担当：志賀】**

社会に出てからも様々な場面で求められる「ロジカル・シンキング」について講義します。「ロジックとは何か」「ロジカルに考えることとはどういうことか」などの基本的事項について学んだ上で、いくつかの思考実験の事例を題材とし、ある事柄を様々な角度から考察することや推論を重ねながら結論を導き出すことの重要性を学びます。

**第9回 テーマ：「クリティカル・シンキング（批判的思考）」 【担当：志賀】**

これからの激動する社会を生き抜く上で必須となる「クリティカル・シンキング」について講義します。「クリティカル（批判的）であることとはどういうことか」「批評することとはどういうことか」などの基本的事項について学んだ上で、時事問題や現代に特有の問題を取り上げ、解釈・分析・評価・メタ認知などの思考プロセスと批判的思考の関係性、「当たり前」を疑うことの重要性などについて学びます。

**第10回 テーマ：「思考力とキャリア（GPSアカデミックの結果分析）」 【担当：志賀／ゲスト：ベネッセ i-キャリア担当者】**

GPSアカデミックの分析結果を踏まえ、自己の思考力がどのように評価されているかについて知り、自己理解につなげます。また、思考力と将来のキャリアの関係について、ベネッセ i-キャリアの担当者の方からお話を伺う予定です。

**第11回 テーマ：「社会で活躍する卒業生たち」 【担当：藤高，志賀／ゲスト：文化学部卒業生】**

文化学部の卒業生をゲストに、働くということがどういうことなのか、また文化学部の学びと今の仕事はどうつながっているか等について話をしてもらいます。3年後の自分の姿と重ねて話を聞いて下さい。

**第12回 テーマ：「メディア・情報リテラシー①」 【担当：藤高】**

「リテラシー」と「人文知」の関係について講義します。ニュースやインターネット、本を「読む」ということばかりではなく、この社会を「生きる」ということに関わるものとして、「リテラシー」の意味を広く捉え返します。ジェンダーなどの身近な例を題材にしなが、人文知がいかに関係性を育むかについて講義します。

**第13回 テーマ：「メディア・情報リテラシー②」 【担当：藤高】**

アメリカ合衆国で実際に起こった「ロドニー・キング事件」を題材に、メディア・リテラシーについて講義します。メディアの情報を批判的に読み解くことの大切さを学びます。

**第14回 テーマ：「メディア・情報リテラシー③」 【担当：藤高】**

最近のトランスジェンダーに関するニュース、及び、そのニュースに対するSNSにおける反応を題材に、SNSにおけるメディア・情報リテラシーの必要性について講義します。私たちにとって身近なSNSが人を傷つける暴力の現場にならないようにするにはどうすればいいのかを考えます。

**第15回 テーマ：「ダイバーシティから考える「学び」と「キャリア」」 【担当：藤高】**

「ダイバーシティ」の観点から、「学び」と「キャリア」について考えます。本学のダイバーシティをめぐる状況や取り組みについても紹介しながら、ダイバーシティの観点から「生きやすい働き方・社会」について考えます。

**準備学習等（事前・事後学習）／Preparation and assignments**

※事前学習は各授業2時間、事後学習も各授業2時間必要です。下記の内容を確認して、しっかりと事前・事後学習を行うようにしてください。

**第1回 イントロダクション、「キャリア・デザイン」について**

【事前学習】 「キャリア・デザイン」とは何かについて、インターネット等で予備知識を得ておくこと。

【事後学習】 自分自身の将来のキャリアについて、現時点での考えを400字程度にまとめておくこと。

**第2回 テーマ：「キャリアとライフ」**

【事前学習】 「ワークライフバランス」について事前に調べておいてください。

【事後学習】 講義を経て、自分のライフプランを一度整理してみる機会をつくってください。

**第3回 テーマ：「異文化理解・人文学とキャリア」①（久米）**

【事前学習】 園田茂人（2001）『中国人の心理と行動』（NHKブックス）の第一章「中国人の行動を理解する」を読む。

【事後学習】 異文化交流のあり方について、自分の意見をまとめる。

第4回 テーマ：「異文化理解・人文学とキャリア」②（久米／ゲスト）

【事前学習】 事前に配布されるゲスト講師に関する資料を踏まえ、自分でもインターネット等を通して調べてる。

【事後学習】 ゲスト講師の話の踏まえ、異文化理解において大切なことは何か、自分の意見をまとめる。

第5回 テーマ：「異文化理解・人文学とキャリア」③（久米）

【事前学習】 毛丹青（2015）『知日ーなぜ中国人は、日本が好きなのか！』（潮出版社）を読む。

【事後学習】 多文化共生のあり方について、自分の意見をまとめる。

第6回 テーマ：「異文化理解・人文学とキャリア」④（久米）

【事前学習】 加藤徹『貝と羊の中国人』（新潮新書）の終章「中国社会の多面性」を読む。

【事後学習】 文化学部の学びにおいて重要なことは何か、自分の意見をまとめる。

第7回 テーマ：「異文化体験のすすめ～「国際文化研修（インド）」を事例として～」（志賀）

【事前学習】 身近にある「異文化体験」の具体例を考え、書き出しておく。

【事後学習】 授業で配布した資料を再読するとともに、異文化体験および異文化交流の意義とそれらの場面で起こりうる問題について自分の意見をまとめる。

第8回 テーマ：「ロジカル・シンキング（論理的思考）」（志賀）

【事前学習】 グロービス [著] / 岡重文 [執筆] 『ロジカル・シンキング 互いを理解し、成果につなげる！』（PHP研究所, 2017年）の第1章または北村良子 [著] 『論理的思考力を鍛える33の思考実験』（彩図社, 2017年）の第1章を読んでおくこと。

【事後学習】 上記の参考文献や授業で配布した資料を再読すること。

第9回 テーマ：「クリティカル・シンキング（批判的思考）」（志賀）

【事前学習】 レスリー・ジェーン他 [著] / 楠見孝他 [訳] 『大学生のためのクリティカルシンキング 学びの基礎から教える実践へ』（北大路書房, 2019年）の全体または一部を読んでおくこと。

【事後学習】 上記の参考文献や授業で配布した資料を再読すること。

第10回 テーマ：「思考力とキャリア（GPSアカデミックの結果分析）」（志賀）

【事前学習】 GPSアカデミックを受検し、分析結果を印刷して読んでおくこと。

【事後学習】 思考力と将来のキャリアの関係について自身の考えをまとめておくこと。

第11回 テーマ：「社会で活躍する卒業生たち」

【事前学習】 文化学部の卒業生の進路について、学部ホームページ等で情報を得ておくこと。

【事後学習】 社会で活躍する卒業生たちの話を踏まえ、文化学部での学びと将来のキャリア・進路の関係について自分なりの考えをまとめておくこと。

第12回 テーマ：「メディア・情報リテラシー」①（藤高）

【事前学習】 「メディア・リテラシー」について、インターネット等を通して基本的な知識を調べておく。

【事後学習】 自分の「学び」と「メディア・リテラシー」がいかに関係しているか、自分の考えをまとめておく。

第13回 テーマ：「メディア・情報リテラシー」②（藤高）

【事前学習】 「ロドニー・キング事件」について、インターネット等を通して調べておく。

【事後学習】 酒井隆史『暴力の哲学』（河出文庫）を読み、授業内容を深める。

第14回 テーマ：「メディア／情報・リテラシー」③（藤高）

【事前学習】 「トランスジェンダー」について自分で説明できるよう、インターネットなどを通して正確な知識を学んでおく。

【事後学習】 私のネット記事、藤高和輝「後回しにされる「差別」：トランスジェンダーを加害者扱いする「想像的逆転」に抗して」を読み、授業内容の振り返りを行う。

第15回 テーマ：「ダイバーシティから考える「学び」と「キャリア」

【事前学習】 ダイバーシティについて調べておく。

【事後学習】 自分のキャリア構想とワーク・ライフバランスの関わりについて振り返り、文章に起こしてみてください。

授業の到達目標/Expected outcome

・文化学部における学び（特に異文化理解と人文学）と将来のキャリアがどのように関係し結びつきうるかについて、自分なりの考えを形成する。

- ・「働くこと」「仕事」「キャリア」等について、自分の考えを持ち、それを口頭もしくは文章で表明することができるようになる。
- ・働くことの意味・目的や、働くことと幸福、働くことと自己実現の関係などについて考え、それらを言語化できるようになる。
- ・社会で活躍する文化学部卒業者（本学事務職員を含む）の体験談を聞くことを通して、自分自身のキャリア・デザインについて意識を高める。
- ・社会に出て働く上で考えなければならない文化と倫理に関わる問題について理解し、自分なりの考えを形成する。

#### 身につく資質・能力／Competencies to be attained

- ・主体性
- ・協働性・協調性
- ・倫理性

#### 履修上の注意／Special notes, cautions

- ・この科目は必修科目です。毎回出席を目指し、文化学部における学びと卒業後のキャリアの関係について考えるとともに、両者を結びつけるきっかけとしてください。
- ・授業は座席指定制で行ないますので、各自の座席を確認して着席してください。ただし、黒板の文字が見えにくいなどの理由がある場合は、担当教員に座席変更を申し出てください。
- ・毎回授業の最後に、当日の授業内容に関するコメントを書いてもらいます。作成方法や提出方法については、各回の授業担当者の指示に従ってください。
- ・授業の前後には必ずmoodleを確認するようにしてください。

#### 評価方法／Evaluation

各担当教員の課題 75% : 各先生の担当回（第3～6回、第8～10回、第12～14回）のそれぞれ最後に課題を実施します。計3回の課題になります。

ゲスト回の平常点 25% : 上記以外の授業回は、広い意味で「ゲスト回」として位置づけます。ゲスト回においては授業時間内に課題を課し、提出してもらうことで平常点とします。

#### 教材／Text and materials

授業中に指示します。各回の「準備学習」の項も参照のこと。

#### 質問や相談の方法／Instructor contact

藤高（kazukin@cc.kyoto-su.ac.jp）までご連絡ください。